



©岐阜県

今号の内容「普及に移した技術の紹介」

- モモ「白鳳」のみつ症発生軽減に有効な着果量増加と早期収穫
- 夏ホウレンソウの収量増加に有効な内張クロス自動遮光

清流の国ぎふ

モモ「白鳳」のみつ症発生軽減に有効な着果量増加と早期収穫

【本所担当／宮本善秋】

近年の気候変動の影響により、飛騨モモに図1のような障害、通称「みつ症」が年や品種により発生することがあります。この発生原因を調べ、発生を減らす研究を行い、以下のことがわかりました。

【発生原因】

1. 「白鳳」のみつ症は、300gを超える大きな果実ほど発生しやすい（図2）。
2. 収穫が遅れて果実硬度の低い、つまり柔らかい果実（図3）ほど発生が多いことがわかりました。

【防止対策】

1. 一本の樹に成らせる果実の数を、普通より1.5倍に増やして、果実を大きくさせ過ぎない。
2. 収穫する時期を早くして、果実をやや硬めで収穫することで、みつ症の発生を軽減できます。

これらの対策を実施することで、美味しく品質のよい飛騨モモが提供できます。



図1 みつ症が発生した「白鳳」の果実

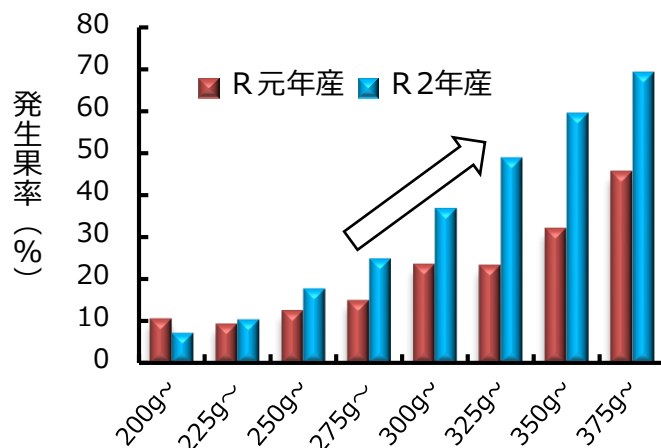


図2 果実重別のみつ症発生率

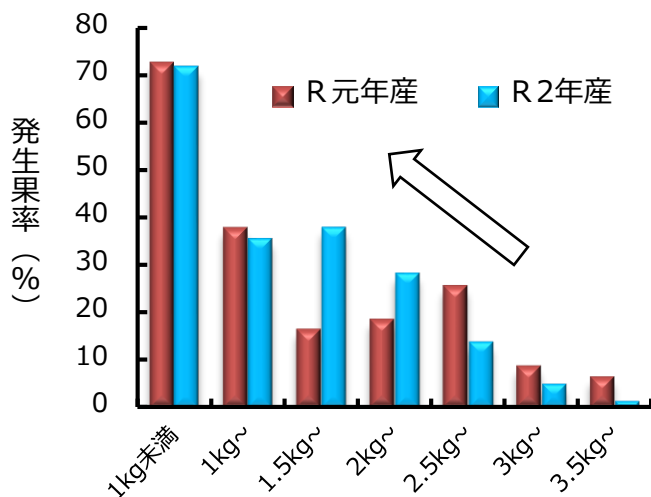


図3 果肉硬度別のみつ症発生率

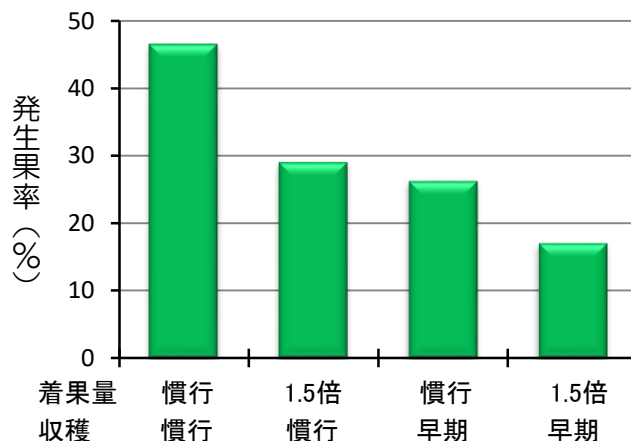


図4 みつ症の発生軽減効果

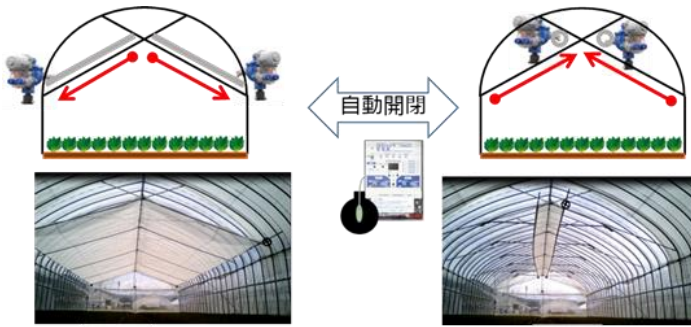
夏ホウレンソウの収量増加に有効な内張クロス自動遮光

【本所担当／岩腰翔太】

夏ホウレンソウの栽培について、涼しい飛騨においても、真夏の高温で生育が止まったり、葉焼けなどの障害が出ています。このため生産者は、直射日光を遮る遮光資材をビニールハウス天井に被せることで対応していますが、手間がかかるので天候に応じて都度開閉できないのが現状です。

そこで、遮光資材を日射に応じ自動で開閉する装置を考案しました。

遮光資材はハウス全体ではなく、ハウスの補強パイプ（クロスパイプ）上で開閉させる「内張クロス自動遮光」（図1）で、収穫量や労働時間への影響などを調査しました。



遮光状態

巻上げた状態

図1 内張クロス自動遮光のしくみ

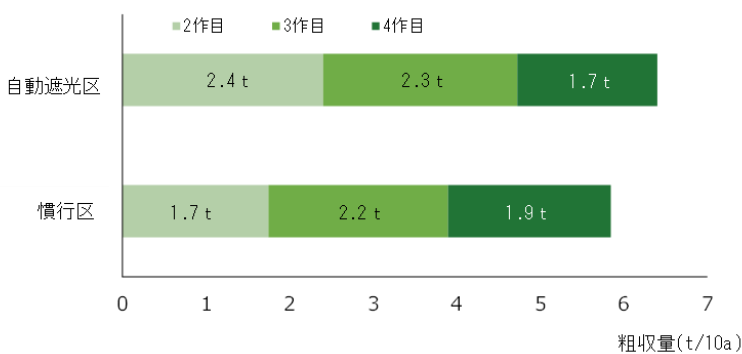


図2 自動遮光と通常栽培の収量比較（R2）

【装置の内容】

- 1 遮光資材の制御と巻上モータは、「電動カンキット」（東都興業株式会社製）を使い、日が当たると暑くなる黒球内の温度センサーで遮光資材を自動で開閉します。
- 2 遮光資材は、40%の遮光率で、黒球内温度の設定は38℃で開閉します。

【効果】

- 1 収穫量は、この装置により約10%増加しました（図2）。
- 2 労働時間は、1年目は機器等の準備にハウスごとに年間約110分必要です。
しかし2年目以降は年間約40分で済み、日射に応じてきめ細やかな開閉作業を全自動で行ってくれます。

これらにより、真夏でも高品質のホウレンソウ生産が可能になります。

令和4年度 試験研究中間検討会開催のお知らせ

本年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止策を行ったうえで、現地にて参集開催を計画しました。詳しくは案内文書にてお知らせします（新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては開催方法を変更する場合があります）。

- | | | |
|--------------------|---|--|
| ○中津川支所
(中津川市福岡) | ・果菜類、クリ ……………
・ 水稻、鉢花 | 8月25日(木) 13:30~ 支所にて
小グループに分けて圃場説明します |
| ----- | | |
| ○本所
(飛騨市古川町) | ・作物(稲・大豆) ……………
・野菜(ホウレンソウ、トマト)
・果樹(モモ・リンゴ)
・花き(トルコギキョウ) | 9月7日(水) 13:30~ 本所にて
是重圃場と山本圃場を会場に
小グループに分けて圃場説明します |

岐阜県
中山間農業研究所

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2丁目6-56
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751

中津川支所 〒508-0203 岐阜県中津川市福岡1821-175
TEL: 0573-72-2711 FAX: 0573-72-3910

研究所ホームページ <https://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>